探究的な学習の在り方に関する研究推進地域

連携中学校区：福山市立一ツ橋中学校区

連携地域を構成する学校

学校名	学級数	児童生徒数
福山市立一ツ橋中学校	１１	２８３
福山市立引野小学校	１３	２６０
福山市立長浜小学校	８	１５８

（R3.11.1現在）

１　指導上の課題

これまで生活科・総合的な学習の時間の授業では，教員が構想した単元計画を提示し，教員主導で学習テーマや課題が設定されていた。児童生徒の学習活動は，そのほとんどが課題について調べる学習で，校内で完結するものが多かった。単元計画に「探究」としての考え方を仕組めていなかったため，児童生徒の自主的な問いを基にした課題設定になっておらず，「自分事」として繋がりを持つことができなかった。児童生徒が主体的に取り組む探究的な学習の在り方を踏まえた生活科・総合的な学習の時間の見直しを行う必要がある。

２　研究の概要

（1）研究テーマ及び研究のねらい

〇テーマ

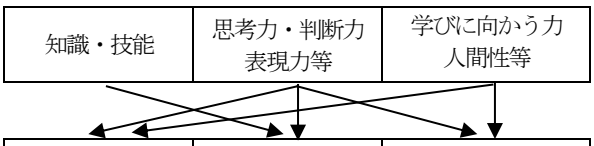
探究的な学習により，実社会や実生活の中から問いを見いだし，その解決を目指す

－自己の生き方を考える資質・能力を育成する単元の開発－

〇ねらい

実社会や実生活の中にある「課題」を自分事として捉え，探究サイクルを意識したPBL学習に取り組み，課題発見・解決力の育成を目指す。

（2）資質・能力の設定について



学びに向かう力	課題発見・解決力	対話する力(一ツ橋) 自己・他者理解力（引野） 自己効力感(長浜)
提示された課題や学習活動には一生懸命に取り組むことができる。一方，自ら問いを見つけ，主体的に考えを広げたり深めたりすることに課題がある。	教員からの課題提示に慣れており，児童生徒は，実生活・実社会から自ら課題を見いだすことに課題がある。また，情報集した内容を比較・吟味することに課題がある。	与えられた課題や題材について，活発に対話することができる。しかし，対話の中からでた疑問や新たな発想について，更に調べたり，深めたりすることは十分ではない。

（3）取組について

【探究的な学習の充実に向けての取組】

《校区》

- 教職員一人一人が「探究」とは何かを考え，協議する。
- 資質・能力が伸びた児童生徒の具体的な姿をイメージする。

《一ツ橋中学校》

- SDGｓと環境問題との繋がりを「自分事」にする。
- 生徒の「やりたい」に基づいた企画・活動（修学旅行の企画）を設定し，学習を進める。

《引野小学校》

- 地域防災学習をテーマにPBL学習を基盤とした探究的な学習を実施する。
- 児童たちの「学びたい」，「知りたい」を生かし，相互評価を行いながら授業を展開する。

《長浜小学校》

- 自分たちの経験則を生かした探究的な学習を実施する。
- 児童が設定した活動（ウォークラリー）を通して，地域の魅力を様々な人に伝える。
- 全体計画や毎時間の課題設定を自分たちで行いながら授業を展開する。

【小中連携の取組】

- Google Classroomの活用
  端末（デジタル）を活用し校区内連携を活発にする。
- 授業観察の時間確保
  研修日の時程を調節し，参観後，協議を行う。
- 小学校の授業参観と意見交流
  研究推進リーダーが小学校を訪問し，参観する。
- 全職員による生活科・総合的な学習の時間の授業参観
  校区研修を実施し，全職員が授業をみて，探究について考え，自分の授業や意識を問い直す。

【資質・能力の評価】

学びに向かう力	
小	・　目標や課題を決め，様々なことに挑戦し，やり遂げることができる。
中	・　自己の生活や各教科からの学びを振り返り，次の学びへと繋げようとしている。
課題発見・解決力	
小	・　課題を見つけ，課題解決のためにより良い方法を考え，解決スキルを活用して解決できる。
中	・　様々な事象の中から自ら問いを見いだし，課題の追究，解決に向けて探究することができる。
対話する力(一ツ橋)，自己・他者理解力（引野），自己効力感(長浜)	
小	・　互いの個性や成長を認め合い，学び合いを通して，自己有用感を高め，挑戦している。 ・　自分のよさや友だちのよさに気付き，自分のやりたいことに挑戦している。
中	・　個人思考を共有することで，新たな思考に気付き，考えの幅を広げたり，深めたりすることができる。

３　実践事例

【探究的な学習の充実に向けての取組】

《一ツ橋中学校》

単元名：『修学旅行の企画を考え提案しよう』（2年）

内　容：延期になった修学旅行の実現のために企画案を作成し，プレゼンする。

○生徒の「やりたい」から

緊急事態宣言により修学旅行が延期となったことで，生徒たちから「実現できる修学旅行を自分たちで創りたい」と課題提案が起こった。

コロナ予防の移動制限を考慮して訪問できる地方を選択し，１学期に学習した環境学習の内容を加味した修学旅行のプラン案の作成に取りかかった。

企画案の作成初期段階に生徒から決めなければならない「課題」として，日程，時間，金額，移動手段，感染症対策等多数出てきた。教員は，「どうしたいのか？」と生徒に問い返し，生徒たちが自ら調べ考えることができるようにした。

○企業や専門家の活用

企画案を旅行会社に提案した。専門家としての助言を受けることで，新たな課題や更に深めることが生まれ，探究を継続して，細部にまでこだわったプラン案を作成した。

〈企画案のプレゼン〉

旅行会社と管理職にプレゼンし，自分たちの修学旅行の実現に近づいた。

《引野小学校》

単元名：『地域学習と防災学習』（５年）

内　容：防災をテーマに１年間総合的な学習の時間に取り組んだ。

１学期　市内を流れる芦田川について学習を進めた。汚い川と言われていることや，何度か水害が起きていることが分かった。児童は，「なぜ汚いのか。」「どんな生物がいるのか。」「なぜ水害が起きたのか。」などの疑問をもった。これらを課題として設定し，グループごとで調べ，まとめていった。

２学期　芦田川について調べたことをグループごとに１つの地図にまとめた。続いて，引野学区にある手城川に新たな課題を見出し，調べていった。芦田川の流域に手城川が入っていることや支流の違いに気付くことができた。新たな課題「大雨が降った時にどのような危険があるか。」を設定し，活動を通して，手城川にも氾濫の危険があることに気付いた。

３学期　保護者や他学年の防災意識を調査し，児童が防災教室の計画を立て，実施した。

《長浜小学校》

単元名：『長浜ウォークラリーを作り，長浜の地域についてもっと知ってもらおう！』（５年）

内　容：楽しみながら長浜の魅力に気付くことができるウォークラリーを作る。

児童の「野外活動で体験したウォークラリーを作りたい。」という思いから課題を設定した。

伝えたい長浜の魅力を調べ，「天當神社の記念碑に関する問題を考えたい。」など，児童の思いを大切にし，問題づくりに取り組むとともに，「安全に活動してもらうために歩道を通る」などの工夫をして地図を作った。

試行錯誤を繰り返しながら，問題やコースの質を高めた。

作ったものを「六年生を送る会」で行うことに決め，準備を整え実現した。

４　研究の成果と課題等

（１）成果

実生活の中にある子どもたちの「なぜ」「やりたい」「学びたい」を教材化することが探究的な学習に繋がることを実感し，授業で意識するようになった。

「探究」をキーワードとした単元計画の再検討を行い，毎時間，児童生徒同士の交流をもち，子どもたちの発見やつまずき等を捉えることで，各教員が状況に応じた授業展開を意識するようになった。

○アンケート結果から

《一ツ橋中学校》

総合的な学習の時間はおもしろい（２年生）　(%)

	とても当てはまる	まぁまぁ当てはまる	あまり当てはまらない	まったく当てはまらない
１学期（環境問題）	３１．０	５７．１	９．５	２．４
２学期（修学旅行）	４７．１	４５．９	７．０	０
差	＋１６．１	－１１．２	－２．５	－２．４

《引野小学校》

総合的な学習の時間に関するアンケート（３～６年）　(%)

	生活科・総合がおもしろい	自分で決めている	自分の考えを出す	自分の考えを伝える	みんなで勉強することはおもしろい
１学期	９０．２	８４．１	７６．９	７６．７	８７．３
２学期	９３．５	９３．２	８４．９	８４．４	９０．５
差	＋３．３	＋９．１	＋８．０	＋７．７	＋３．２

《長浜小学校》

総合的な学習の時間に関するアンケート（３～６年）　(%)

	生活科・総合がおもしろい	難しいことを考えるのはおもしろい	探究することはおもしろい	学習中に新たな疑問が見つかった	思いをアイデアや意見に出せた
１学期	７０．０	８４．８	９３．４	９０．９	７８．７
２学期	８６．４	９３．９	１００．０	１００．０	８４．８
差	＋１６．４	＋９．１	＋６．６	＋９．１	＋６．１

一ツ橋中の修学旅行の学習は，生徒の「やりたい」を起点とした学習が繋がったため，考えることが楽しいと感じる生徒が増え，「自分事」となり，意見を出し合うことで新たな課題が見つかる好循環がうまれた。夢中で学習に取り組む生徒の表情や姿から，探究には「自分事」としての繋がりが必要であると再認識した。

引野小，長浜小の学習は，相互評価や経験したことを生かすことで，「自分事」として課題を捉え，探究活動に繋げることができた。「自分事」は「学習がおもしろい」に繋がることを再認識できた。

〈調べたことを地図上で共有〉

（２）課題

子どもたちが，自らテーマを設定すること，課題をもつことができたのは一部の単元のため，他単元に広げる必要がある。

子どもたちの探究や学びを止めない教員のファシリテート力を高める。

子どもたちの学びを広げるために，地域の方々や企業との関わり，アウトプットする場を充実させる。

（３）今後の改善方策等

子どもたちの探究心を育成するためにも各教科，全教職員が様々な教科等で探究サイクルを意識した授業展開を行う。

児童生徒の姿をもとに中学校区内での資質・能力の評価規準の具体を蓄積し，必要に応じて活用できるようにする。

子どもたちの現状を把握し，個への手立てを行ったり単元計画を変化させたりすることで，「学びたい」を繋げる。